

平成21年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成21年9月8日

施設名	幡多青少年の家	所管課室	生涯学習課
-----	---------	------	-------

業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までは、利用者増を最重点課題として、利用者数3万人を目標としていたが、職員への過剰な負担を軽減するため目標を2万8千人として量から質への転換を図っていくこととした。具体的には、利用団体の研修目的を支援するためのプログラムや小・中・高等学校の発達段階を考慮したプログラムを作成するとともに、指導員の質の向上を図るため、所内検討会において指導内容の見直しや統一化を図って対応している。 ○地元の上川口小学校と連携し、宿泊中の子どもたちの避難誘導訓練を取り入れた消防合同訓練を実施した。 ○地域社会との連携・融合を図るため、地元の行事や清掃活動へ参加、地域の高齢者や保育園児向けの主催事業により三世代交流に取り組んでいる。 ○中学生リーダー研修を開催し、地域における人材育成に取り組んでいる。 ○ボランティアバンク登録者の充実を図った。(3割増)
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受入事業において、事前の研修相談を2時間以上行い、利用団体の研修目的達成の支援を行っている。 ○施設の自然環境を活用した主催のプログラムや小・中・高等学校の発達段階を考慮したプログラムを作成するとともに、アンケート調査で利用者ニーズを把握し、改善を図っている。
③施設の運営について	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設独自の基本方針として、21世紀を担うリーダー育成のため、「心豊かで自立できる人づくり」を図るとともに、青少年に「出会い」と「夢」と「感動」を与えられる日本一の社会教育施設を目指して、事業を実施している。 ○施設面では建物が古く修繕箇所も増えてきたが、職員で対応可能なものは修理等に出さず、職員で対応した。 ○デマンド警報装置(電気使用量が一定の量になると警報してくれるもの)の設置や、一定時間使用しないパソコン・エアコン・照明器具等の電源をOFFにするなど、電気代の節約に努めた。 ○幡多青少年の家と(財)大方青少年育成会の職員で、主催事業ごとに実施案の検討、詳細案の事前確認等を行って情報を共有するとともに役割分担を行い、職員が一丸となって事業に取り組んでいる。 <p>(継続した取り組み)</p> <p>施設の運営の改善を図るために、地元の関係者と施設職員で構成される「幡多青少年の家の今後を考える会」を開催し、各主催事業ごとの反省会や全主催事業終了後に評価会を行い、次年度以降の計画等の見直しに役立っている。</p>
④利用実績	<p>○平成20年度の利用実績は、宿泊者数10,697人、利用団体数520団体、利用者数28,665人であった。平成19年度と比較して、宿泊者数で△1,520人、利用団体数で△97団体、利用者数で△3,736人となっている。昨年度までは利用者数30,000人を目標として休館日である月曜日を閉館し、一日に4団体の受け入れを行っていたが、教育的な質を高めるため、平成20年度は28,000人を目標とし、月曜日の開館は月2回、一日3団体までの受け入れとしたことによる。</p> <p>利用者数は減少したが、指導面や厨房において余裕をもった対応が可能となった。</p>

⑤収支の状況	○平成19年度と比較して、使用料収入は503千円の減収となった。(宿泊料参考 中学生以下230円、青少年25歳未満400円、青少年以外790円)
総合評価	<p data-bbox="459 528 491 562">A</p> <p data-bbox="555 277 1465 562">所内での情報の共有化を図り、地域との連携にも積極的に取り組んでいる。利用者の要望により、休館日も月2回開館し、利用者サービスに努めた。年間利用者数は減少したが、社会教育施設として教育的な観点からの指導、事業を実施しており、特に、不登校や不登校傾向にある児童生徒を対象にした「わくわくチャレンジ体験」事業に参加した児童生徒の中には、活動することにより人との交わりができるようになり学校へ復帰したケースや進学したケースも見られた。また、この事業は近隣の適応教室間で連携し、指導者や子ども同士が交流する良い機会に繋がっており、成果を上げている。</p> <p data-bbox="555 568 1465 725">今後、さらなる向上を目指して、以下のことに取り組んでもらいたい。 ・子どもたちの変化や学びを読み取れるようなアンケート項目の設定 ・ボランティアスタッフの活動の満足度を把握するためのアンケート調査を実施し、施設側のニーズとのマッチングを図るなど、ねらいを持ったボランティアを育成することにより有効に機能する仕組みを構築すること。</p>